

News Release

2008年9月19日
国立大学法人 京都大学

人工多能性幹細胞（induced Pluripotent Stem Cells; iPS細胞）の作製方法に関する特許が成立（日本）

京都大学 物質－細胞統合システム拠点 iPS細胞研究センターの山中 伸弥 教授が世界ではじめて樹立した人工多能性幹細胞（induced Pluripotent Stem Cells; iPS細胞）に関する特許につきましては京都大学が権利者となって特許出願を行っていましたが、この度 iPS細胞の作製方法に関する特許が日本で成立しました。

成立した特許の特許請求の範囲は以下のとおりです。

「体細胞から誘導多能性幹細胞を製造する方法であって、下記の4種の遺伝子：Oct3/4、Klf4、c-Myc、及び Sox2 を体細胞に導入する工程を含む方法。」

京都大学は、国際出願(PCT/JP2006/324881、国際公開 WO2007/69666、国際出願日 2006年12月6日)から日本国に移行手続きをした特許出願(特願 2007-550210号、親出願)をもとに本年5月20日に分割した特許出願(特願 2008-131577号、分割出願)を行いました。今回の特許はこの分割された特許出願に対して付与されました。

この特願 2008-131577号については分割出願と同時に早期審査請求を行い、約3ヶ月で特許されるに至りました。今回成立した特許は、4つの遺伝子を体細胞(例えば皮膚細胞)に導入する工程により iPS細胞を製造する方法に関するもので、この方法で製造された細胞にもその権利が及びます。

なお、本件は日本以外の国にも出願しています。

本件担当

京都大学 物質－細胞統合システム拠点

iPS細胞研究センター 支援室

TEL : 075-751-4842

FAX : 075-751-0691

Email : ips-contact@icems.kyoto-u.ac.jp